

# みんなのた場

## サ一フル 仲間

河北ベルリンガーズ・アンダンテ

### 心一つにつなげる音色 歩幅のよりにゆっくりと

東日本大震災の復興支援で河北文化協会に寄贈されたハンドベルを使った教室が、平成24年3月に河北総合センター「ビッグバン」で開かれました。この時の受講者の有志が集まって同年9月に河北ベルリンガーズ・アンダンテが発足しました。名前のアンダンテは「歩く速度で」を意味する音楽用語です。名前の通りゆっくりと音色を楽しみながら練習することを合言葉にしています。



▲演奏を通じてメンバーの仲も深まります



▲毎週金曜日に集まり、次回の演奏会に向けて楽曲を練習しています

楽器演奏は未経験です。ハンドベル教室で指導助手をしていた日本ハンドベル連盟所属の須田美知子さんが指導者となり、毎週金曜日の午後1時半から3時半まで練習に励んでいます。代表の今野智子さんは、「柔らかな音色と、メンバー同士が気持ちをつなげて曲を奏でていくことです。1本のベルでは1音しか出せないため、演奏の時にはメンバー全員の心や動作、打ち加減を共有する必要があります。人それぞれ癖があります。

「今後も地域に飛び出してハンドベルの魅力をお届けしていきたい」とメンバーの皆さんは意欲的です。今野さんは「誰でも気軽に演奏に参加できるので、練習会を見学してみても、その中で実際に鳴らして楽しさを感じてほしいです。ぜひ一緒に演奏しましょう」と話していました。

り最初は大変でしたが、音がそろった時はとてもうれしく連帯感を感じることができました」と語ります。

活動当初から練習成果の発表の場として地域の文化祭に出演してきました。また、最近では地元の保育所や介護施設からも依頼があり、童謡やアニメの主題歌等を演奏するうちにレパートリーは50曲まで増えました。昨年のクリスマスには、ビッグバンのロビーで単独演奏会を開き、多くの人たちの心に優しい音色を届けてきました。

## 文化財 たんぽう

88

### 国指定名勝齋藤氏庭園の保存整備

生涯学習課



▶解体修復される土蔵

河南地区の国指定名勝齋藤氏庭園は、東日本大震災により、建物や塀等に大きな被害を受けたため、市では、国の補助のもと保存整備工事を行っています。平成25年度は茅葺屋根の葺き替えや傾いた塀等の緊急補修工事を行い、平成26年度から前土蔵および後土蔵の半解体修理を行っています。

土蔵の半解体修理では、屋根瓦や土壁を一旦取り除くため、屋根下や土壁内部に組まれた竹小舞等の

普段目に見えない貴重な伝統工法が露わになりました。また、前土蔵は棟札から天保14年(1843)に棟上されたことが分かりました。柱は腐朽部を取り除いて新材で継ぐ根継補修を行い、虫害による腐朽が見られる大梁にはエキポシ樹脂注入による補強を行う等、使える部材は可能な限り再利用をしています。



▲竹小舞の様子(修復後)

庭園の樹木、植栽の生育に支障がないよう配慮しながら、今後も修復工事は継続されます。入場を制限する箇所もあるため、現在は無料で庭園を開放しています。4月は桜が見頃ですが、初夏の新緑や秋の紅葉、冬の雪景色等四季折々で風情を楽しむことができますので、ぜひ来園ください。

## キラッとパチリ

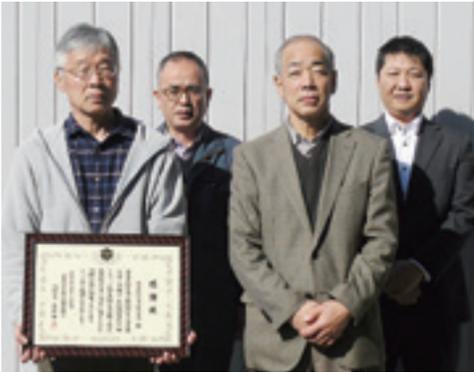
地域の防災力発展に貢献

河北地区の

### 2団体が表彰

積極的に防火・防災活動に取り組んでいる「石巻市河北婦人防火クラブ」と「成田地区自主防災会」の河北地区の2団体がこのほど相次いで表彰されました。河北婦人防火クラブは昨年11月に大和町で開かれた宮城県消防大会(公財)宮城県消防協会会長表彰の感謝状を受けました。同団体は昭和51年12月に河北町婦人防火クラブとして設立して以来、春と秋の火災予防運動はもとより、日頃からの防火思想普及・高揚活動に力を注いできま

した。狩野詩子会長は「これまでの諸先輩をはじめ携わった多くの皆さんでいただいた賞。活動に参加することで防火意識高揚につながりますので、今後も輪を広げていきたいです」と語っていました。また、成田地区自主防災会は、昨年11月に石巻地区広域行政事務組合消防長表彰式で感謝状を受賞しました。現在約500人が所属する同会は、震災時の物



資提供や避難所運営に尽力しました。その後も従来の訓練に加え、消防団と連携した大規模な防火訓練を実施しています。高橋忠之会長は「コミュニティのつながりを大事にしながら、組織体制も強化していきたいです」と今後の目標を話していました。



▲継続的な活動が認められた石巻市河北婦人防火クラブの皆さん

▲震災の教訓を活動に生かしている成田地区自主防災会の皆さん

# まちの話題

## 雄勝地区



2月18日(木)~29日(月)  
オーリンクハウス会議室

### 写真で振り返る 5年の歩み

道路工事に伴い仮設商店街「おがつ店こ屋街」が移転することから「再び一歩を踏み出すために たなこや写真展」が開かれました。震災発生後の2カ月後に開催した「復興市」に始まり、今年1月の「おめつき」まで約5年間の地区内のイベントや祭りの様子等が人々の笑顔を中心に飾られました。来場者は展示された約550枚の写真をじっくり眺め、これまでの日々を振り返っていました。

## 河北地区

3月1日(火)  
飯野川商店街等



### 元気に呼びかけ 「火の用心」



春の火災予防運動(3月1日(火)~7日(月))にあわせて河北幼稚園と飯野川保育所の約100人の子どもたちが防火パレードを行いました。子どもたちは拍子木を鳴らしながら約1キロを行進し、沿道の保護者や地域の人たちに「火の用心、マッチ1本、火事のもと」と大きな声で呼びかけました。一日消防署長を務めた管理栄養士の生出真子さんも一緒に火災予防を訴えました。

## 桃生地区

2月24日(水)  
桃生公民館



### 楽しく学んで 仲良く卒業

60歳以上を対象とした桃生公民館の長生大学の卒業・修了式が行われ、1年間の活動を終えた約50人に卒業・修了証が授与されました。多彩な内容の長生大学は毎年6月に始まり、受講者が楽しみながら交流を深めています。卒業式に続いて記念講演も行われ、元大須中学校校長で、みやぎ婦人会館専任講師の早坂廣輝さんが方言の面白さ、表現の豊かさについて語りました。

## 河南地区

3月9日(水)  
須江小学校体育館



### 伝統の 獅子舞伝承式

須江地区に伝わる伝統芸能「須江獅子舞」の伝承式が行われました。須江獅子舞保存会の会員や保護者、全校児童が見守る中、6年生50人から5年生47人に、太鼓のばちや笛、法被等が引き継がれました。先輩たちが築いてきた伝統を受け継いだ5年生たちは、さらなる練習に励むことを固く誓いながら、リズムミカルで勇壮な舞を披露していました。

## 牡鹿地区

3月8日(火)  
旧牡鹿公民館跡



### 地域情報を発信する 拠点完成

震災から復興に向かう地域の情報や各種事業の取り組み等を発信する復興まちづくり情報交流館牡鹿館が開館しました。地域の皆さんの交流の場とともに、観光客に震災や観光情報を紹介します。三方に開けた交流テラスを引き戸で囲って、屋内の展示場等として使える造りになっており、旧体育館跡地を合わせると祭り会場にもなります。地域コミュニティー再生拠点としての活用が期待されます。

## 北上地区

3月2日(水)  
北上子育て支援センター



### 健やかな成長願って ひな祭り会

相川保育所内の「北上子育て支援センター」で桃の節句(3月3日)を前に恒例のひな祭り会が開かれました。地域の親子が参加してひな祭りにちなんだ歌や遊び、お内裏様とおひな様に扮するパネルで記念写真を撮る等、楽しいひとときを過ごしました。また、親子で一緒にひし餅の形をしたちらし寿司作りにも挑戦し、出来上がった後の食事会では、和気あいあいと交流し、親睦を深めました。

## 石巻地区

3月6日(日)  
石巻専修大学



### 世代を超えて 備える意識

市が定めた防災週間(3月5日~11日)に合わせて、住民の防災意識向上と震災の教訓を伝えようと防災シンポジウムが開かれました。小・中学生や地域で活動している人たちが取り組みについて発表したほか、講演会やパネル展示、炊き出し等が行われました。また、備蓄食料の試食や消防車両の展示もあり、訪れた人たちはさまざまな視点から災害への備えの大切さを再認識しました。

## 石巻地区

3月5日(土)  
市総合体育館



### 健やかな 心身づくりをサポート

子どもたちの健やかな成長を支援する「すこやかカラダ大作戦inみやぎ」のキックオフイベントが行われました。ロンドン五輪バドミントンの潮田玲子さん、北京五輪トランポリンの外村哲也さん、元サッカー日本代表の福田正博さんが登場し、地元の子どもたち約100人と触れ合いました。ゲストの3人はそれぞれの技を子どもたちの前で披露したほか、レクリエーションでは直接指導を行いました。